

東京大学東洋文化研究所
附属東洋学研究情報センター

平成 1 5 年度事業報告

東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

設 立 平成 11 年 4 月 1 日
所在地 〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
電 話 03-5841-5839
FAX 03-5841-5898
URL <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

現状と課題（平成 15 年度）

はじめに

東洋学研究情報センター (Research and Information Center for Asian Studies, 以下、センターと略) は、東洋学文献センター(1966 年設置)に代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999 年 4 月 1 日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。

センターの研究分野は、造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授・助教授各 1 と、比較文献資料学分野担当の教授・助教授各 1 に、それらを補佐する助手 1、さらにセンター教員と協力してプロジェクトを推進する客員教授 1 からなる。

また、上記の文献・造形資料学の研究に加えて、新たにアジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを昨年度から開始した。こうした新事業の展開を通じて、研究所が行うアジア各地域・各分野に関する先端的な研究を支えるアジア資料学の構築に加え、アジア研究情報を収集・加工・発信する研究情報センターとしての機能がさらに強化され、また学界や社会に対して大きな貢献がなされることが期待されている。

平成 15 年度の主なセンタープロジェクトとして、データベース・プロジェクトでは、中国絵画デジタル・アーカイヴ、イスラーム地域文献資料、「荒木文書」、貴重漢籍の補修とデジタル化、在外日本企業作成資料、イスラーム地域造形資料などを、また研究情報プロジェクトでは、アジアの世論調査の現状と展望(アジアバロメーター)、アジア研究情報ホームページの各プロジェクトを実施し、その成果の一部をセンターのウェブサイト上で公開した。また、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施した。(個別のプロジェクトについては別表参照)

また、成果普及活動としては、漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニュースレター『明日の東洋学』と文献目録資料『東洋学研究情報センター叢刊』二点を刊行した。全国文献・情報センター長会議や同共催セミナーへの参加をはじめ、学内外の関係機関との交流にも努めた。

A 人員・施設

1. 教職員

研究情報センター長	教授(併任)	田中 明彦
研究情報センター主任	教授	長澤 榮治
	教授	丘山 新
	助教授	板倉 聖哲
	助手	大田 省一
	客員教授	濱下 武志
業務掛	掛長	江川 和子

2. 施設

現在面積

事務室	64	平方米
作業室 1	24	〃
作業室 2	48	〃
計	136	平方米

B 本年度実施状況

1. センタープロジェクト

研究情報の収集，資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを募集し，実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

試行プロジェクト……重点プロジェクトに移行することを目的として，試行的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

重点プロジェクト

1 中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト / 板倉

[造形]

全体計画

当研究所東アジア美術部門では半世紀に渡って乾隆以前の中国絵画の資料収集を継続して行っている。従来それらはアナログ形式の保存であり，既に経年変化が起こり始めており，保存形式のデジタルへのコンバートは急務である。本プロジェクトはこれまで収集した資料のデジタル化，デジタルを機軸にした新たな資料収集の方法の模索を行うことである。同時に，所在情報をデータベース化し，それを公開することは学問のコンセンサス形成に大きく寄与すると信じる。

今年度の進捗状況

本年度は継続して行っているフィルムのデジタル化を引き続いて行った。又，前年までに書籍媒体として出版された『中国絵画総合図録』正編部分は整理を終えセンターのホームページで「中国絵画所在情報データベース」として公開しているが，今年度は『中国絵画総合図録』続編の文字データを整理し，その一部を公開中のデータベース「中国絵画所在情報データベース」に追加した。又，併行して行っている中国絵画の実地調査で判明した作品の移動については補記にデータとして追記した。

具体的な成果物 [Web 公開]

中国絵画所在情報データベース

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

2 イスラーム地域文献資料データベース構築 / 長澤

[文献]

全体計画

イスラーム地域，とくに西アジア諸国のアラビア文字文献資料のデータベース化を進めるために，資料の様式と特徴，また利用方法についての研究を行う。とくに近代史の基礎資料である公的刊行物（官報・議会資料・地誌・法制史資料など）を取り上げ，データベース構築のための情報入力と整理を行う。

今年度の進捗状況

第二年度である今年度は，近代エジプト社会史基本資料のアリー・ムバーラク『新編地誌』と革命前エジプト議会議事録を取り上げ，その索引部分に関するデータ入力とデータベース構築に向けての加工を行った。『新編地誌』全 20 巻のうち昨年度入力した 1-7 巻の索引のデータ加工を行うとともに，8-17 巻の索引のデータ入力を行った。また，議事録については下院・上院の全会議（jalsa）情報のデータ入力を行った。

成果物 [予定][Web 公開]

アリー・ムバーラク『新編地誌』の索引検索データベースのパイロット版の作成を踏

まえ、公開に向けて本格的なシステムの立ち上げを来年度目指す。

3 東洋文化研究所所蔵「荒木文書」のデジタル情報化 / 大田

[造形]

全体計画

東文研所蔵の『荒木文書』を中心とする旧東方文化学院時代に関野貞や竹島卓一らが収集した建築に関する文字及び非文字史料の整理・データベース化・保存修理・デジタル画像化を行うことにより、文字および非文字史料双方の情報解析を推し進め、歴史建築をヴィジュアルに復元することを目指す。

今年度の進捗状況

昨年度データ入力した清朝建築関係史料の目録をセンター叢刊4（下記参照）として刊行した。また、ひきつづき清朝建築図様の庭園部分21点の大型カメラによる高精度撮影を行い、撮影画像をデジタル化してDVDに収録した。他には図様修理・写真乾板調査のための研究助成を3か所に申請し、所内写真乾板予備調査も行った。

具体的な成果物 [刊行物]

- ・東洋学研究情報センター叢刊4『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録』（大田省一・井上直美編，東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2004年）2004年3月29日発行
- ・清朝建築関係史料（文書部分）のマイクロフィルム公開中
- ・清朝建築関係史料（貴重書扱い文書）の紙焼きコピー公開予定
- ・清朝建築関係史料（図様部分）のデジタル画像公開予定
- ・清朝建築関係史料（図様部分）の高精度撮影フィルム（原板）東洋学研究情報センターが管理し、展示・研究等に必要な場合、紙焼きに応じる。

4 アジアの世論調査の現状と展望（アジア・バロメーター） / 猪口

[研究情報]

全体計画

アジアの殆どの地域では普通の人々の日常生活が体系的に調査されていない。そこで、本事業は東アジアと東南アジアのみならず、南アジアと中央アジアをも射程にのらせたアジア全域の社会調査を通じて、人々の生活の物理的・社会的・心理的側面を浮きだし、アジアの経済発展、民主化、地域統合の展望を経験的データの分析に基づいて、アジアの動向を草の根レベルから、より堅固な形で実証データを基に観測・分析するものである。

今年度の進捗状況

2003年1月 - 4月に質問表を作成した後、2003年5月 - 6月にかけてアジア10カ国（日本、韓国、中国、タイ、マレーシア、ベトナム、ミャンマー、インド、スリランカ、ウズベキスタン）において第一回現地調査を行った。その結果を元に2004年1月21日公開シンポジウムを開催し、分析内容を東洋文化研究所ディスカッションペーパーとして発表した。そして、2004年6月に行う予定の第二回アジア・バロメーター現地調査の準備を進めている。

具体的な成果物 [Web公開] [刊行物] [新聞記事]

刊行物「東洋文化研究所ディスカッションペーパー」2004年

ウェブサイト「AsiaBarometer (URL: <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/>)」

雑誌掲載「アジアバロメーターの展開」『明日の東洋学』2003年10月

新聞記事「「自分の生活水準低い」3割 日本、アジア、10ヶ国で最多」朝日新聞 2004年1月

新聞記事「「アジア・バロメーター」世論調査 「内向き」目立つ日本 誇りなく、人間関係も希薄」読売新聞 2003年12月

新聞記事「日本人であること「誇り」65%」読売新聞 2003年12月

新聞記事「韓国の政府信頼度「21%」アジアで最下位」中央日報（韓国） 2003年12月

5 貴重漢籍の補修とデジタル化 / 丘山

[文献]

全体計画

東洋文化研究所には漢籍約8万点が所蔵されるが、なかでも約300点は学術・文化的に非常に貴重な資産である。この貴重漢籍を将来にわたって保存することを目的とし、一般利用・公開のためにすべてをデジタル化する。現在、国内外の研究機関や図書館で公開されている展示用の漢籍の画像データベースと異なり、本格的な研究に資するデータベースを構築する。また、一部痛みの激しいものは、早急に補修する。

今年度の進捗状況

事業の第一段階の基本方針は、外注により貴重漢籍をマイクロ化・複本化し、同時に画像デジタル化する。この事業は、研究所図書室が進めつつある「貴重資料の保存と公開」事業と一部共同で作業を進める。本年度は、漢籍関係の教官の協力を得て、貴重漢籍資料約300点を選定し、センタープロジェクト経費・リーダーシップ経費により、106点を画像デジタル化した。

具体的な成果物

未公開 CD 37枚

試行プロジェクト

6 在外日本企業作成資料のデータベース化 / 濱下

[文献]

全体計画

「在外日本企業作成資料」は、戦後50余年を経て初めて公文書館に移管されたGHQによる戦前に国内・国外で営業した1,000余の機関・企業の清算事業に関する5,000余箱にのぼる膨大な原資料であり、そのうち本プロジェクトでは、アジアに関する日本企業について、清算時点で国内に保管されていた資料の概要を把握することを目的とする。これまで未公開の企業経営に関する原資料であり、これまで不可能であった戦前・戦中期のアジア規模の経済・企業研究を可能とする。

今年度の進捗状況

満鉄関係、東洋拓殖会社関係、朝鮮銀行関係、台湾拓殖会社、南洋拓殖会社に関する資料の存在状況の全体的な概要を把握すると同時に、具体的なケースについてのパイロット的な目録づくりを台湾の事例に基づいておこなった。台湾製糖会社の経営記録は一つのまとまりを持つ資料群であり、具体的な事例として資料分類目録の作成を進めた。

具体的な成果物[予定][データベース]

概要を整理中の資料の中で、南洋関係の資料は、外交史料館の「海軍関係資料」との連続性が確認され、それはアジア歴史資料センターにおけるデジタル資料の公開と関連している。また、公文書館における清算事業資料に関する目録作成作業とも関連していることから、本プロジェクトの課題として、これらの3機関に於ける資料整理、目録作成、デジタル化公開というプロジェクトを横断的に繋げることによって、より容易に活用できるプログラムを作成し提供することである。来年度中にはこれまでに入力された目録資料をもとに、三者比較データベースを公開する。

7 イスラーム地域造形資料データベース構築 / 榎屋

[造形]

全体計画

これまでにまだ整理されていないイスラーム地域の様々な造形資料を広くデータベー

ス化し、今後の関連研究への貢献を目指す。本プロジェクトでは、以下の4つのデータベース作成作業を同時進行させる。

A：イスラーム建築写真資料のデジタル化・データベース化

B：イスファハーン古地図よりの地名データベース化

C：日本所蔵のイスラーム美術作品データベース化

D：イル・ハーン朝タイルのデザインと銘文のデータベース化

今年度の進捗状況

A：4x5，6x9 はデジタル化完了。所蔵資料のうち最も多い 35 ミリ白黒フィルムのデジタル化に着手、全体の5分の1ほどを処理した。引き続き 6x6 のデジタル化も進行中。

B：古地図の全文字を全て読み終わり、原綴・翻字のリストが完成したが、検索システムの構築は予算が足りずペンディング。

C：811 作品が入力済み。現在判明している日本所蔵作品の3分の1程度が処理済みと考えられる。

D：処理すべき写真資料の入手が困難な状態となり、一時中断した。

具体的な成果物 [Web 公開]

A：「インド・イスラーム史跡データベース」

(URL: <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml>) として公開している。前年までの 4x5 資料の一部のみ公開に加え、4x5 及び 6x9 の全公開を実現した。また、デリーに検索ページを公開する準備が整った。

B，C，D：データベースとして公開できる状態には至っていない。

8 アジア研究情報ホームページ / 長澤

[研究情報]

全体計画

日本のアジア研究に関する情報を収集・発信するとともに、世界に開いた日本のアジア研究情報の窓口となるウェブサイトを構築し運営する。日本のアジア研究についての基本情報を提供する拠点となり、また研究者に最先端の研究動向や各種の研究情報を相互に交換する公共的な情報交換の場となることを目指す。

今年度の進捗状況

初年度である今年度は、日本語ホームページの基本的なコンテンツの企画と情報収集・整理を行ない、サイトの試行的な立ち上げを経て、一般公開の段階にまで到達した。その主な内容は、アジア学 Web イエローページ(各学会・大学・研究機関へのアクセス)、Asian Walker(書店や図書館・文書館の情報や留学情報など)、Asian Studies Watching(最先端の研究動向に関するエッセー集)、アジア学への招待(研究会・講演会情報)である。

具体的な成果物 [Web 公開]

「アジア研究情報 Gateway」ホームページ。2003 年 10 月試験的立ち上げ。2004 年 1 月一般公開。URL：<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

9 ダイバー・コレクションのデータベース化 / 鎌田

全体計画

本研究所所蔵のアラビア語を中心とする写本集成であるダイバー・コレクションの冊子体カタログをオンラインで利用可能なデータベース化し、そのオンライン・カタログから写本自体を参照できるようにする計画である。写本資料の利用が簡便になることで、テキストの出版がかならずしも十分でない西アジアの文献研究を大いに補完することをねらっている。

今年度の進捗状況

写本自体のデジタル化については、質のよい複製の作成の目的もあり、画像技術室の技官の手により丁寧に進めている。今年度は 30 数点の写本のデジタル化を行った。同時に冊子体カタログ 2 冊のデジタル化については、まだ点検 作業は完了していないが、全体の入力作業はほぼ終了した。

具体的な成果物 [予定][データベース]

公開済みの成果はないが、2004 年度中に部分的であっても試験的な公開を進めたい。

10 英領植民地ビルマにおける借金文書の整理とデータベース化 / 高橋 [文献]

全体計画

植民地期ビルマの土地・借金文書(通称チッティーサージョウツ)は、これまでのビルマ経済史研究の中で、全く利用されたことがない。この史料の収集はまだ世界の誰も手をつけておらず、これを収集し、整理して、さらにデータベースを作成するならば、今後の英領植民地ビルマ経済史の研究にさらに新しい地平を切り開くことができるであろう。具体的な作業は、スキャナーで文書を読み取り、契約の内容(年月日、場所、当事者、抵当物件、借金額等)を英文で整理し、ファイルメーカーでフォーマットして、データベース化することである。

今年度の進捗状況

今年度は資料の収集の継続とその整理を行った。スキャナーの購入が年度末近く にずれ込んだため、データベース化の作業は来年度から始める。

具体的な成果物

なし。研究支援推進員の予算がつけば、作業を進めて行きたい。

11 東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化 [文献]

全体計画

欧文と和文の雑誌については情報研究所所管の各大学所蔵データベースがあって検索に供されているが、中国語雑誌については立ち後れた事情にある。本計画は当研究所所蔵の中国語雑誌について試行的にデータベースを先行作成するものである。

今年度の進捗状況

過去 3 年間で入力作業をほぼ終えていたが、最終年度の本年度は、情報研究所データベースの規範に従ったデータの修正を行い、またアップデートを行って、当研究所の WEB において公開した。

具体的な成果物 [Web 公開]

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmgz.html> にてデータの検索サービスを無料で公開している。

一般プロジェクト

12 東洋文化研究所図書室漢籍検索システムの編成 / 尾崎

全体計画

当研究所所蔵漢籍データベースはほぼ完成したが、このデータベースのデータを、当研究所の漢籍出納のための検索に利用するには、図書の順調な出納を可能にするための若干のデータ(分冊番号)追加記入が必要であり、その作業を遂行するためのプロジェクトである。

今年度の進捗状況

全体作業のうち、目録冊子の四部分類部分 = 約 80% 作業終了。目録冊子の叢書部分 = 約 70% 作業終了。冊子未収書部分 = 基礎作業ほぼ終了、しかし公開データベースに反映するには、再度の加工が必要。したがって、来年度に作業支援をしていただけたら、

秋までには終了できる見込みである。

具体的な成果物 [Web 公開]

作業済みのデータのうち大半は、すでに公開されている当研究所所蔵漢籍データベース (<http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html>) に反映されている。

13 中国近現代文学関係雑誌記事データベース / 尾崎

全体計画

中国近現代文学の文献情報(当面は近20年の主要研究誌の記事を対象とする)について、標題・著者・掲載紙名・刊行年月・ページ・付記・検索のための読音などを収録したもので、中国漢字(GBコード)とアスキー文字によるデータベースである。科研費補助金(成果公開・データベース)の支援により遂行している。中国における中国近現代文学研究は、1980年代以後急速に進展して発表される論文や公開される新史料などは年々増加し、個人でフォローするのが大変困難になっている。この困難を解決するために作成しているが、全国の研究者の利用が飛躍的に増えてきており、研究の底上げに貢献したと自負している。今後はさらに全国の研究者と連携を深め、全国のあるいは国際的な文献情報センターとしての役割を果たすことで、多大な学術的貢献を果たそうと企画しているものである。

今年度の進捗状況

全体で5年間の計画で本年度は最終年度であるが、本年度入力予定のデータ数4,000件を超えて、約5,000件の入力を完了し、計32,000件を超えるデータを公開している。

具体的な成果物 [Web 公開]

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/index.html>にてデータの検索サービスを無料で公開している。

14 東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース / 大木

全体計画

東京大学東洋文化研究所が所蔵する8万余点、25万冊に及ぶ漢籍について、その書名・撰著者名をはじめその他の詳細な書誌項目を含めた目録情報のデータベースである。科学研究費補助金(研究成果公開促進費・データベース、平成10年度より14年度)の交付を受けて、平成14年度までにすでに6万6千件のデータを作成してきた。本データベースは、一般的な書誌検索に効果を発揮するばかりでなく、カードレス化以後の所内図書館の閲覧システムにおいても、重要な役割を果たしている。

今年度の進捗状況

本年度は、東洋文化研究所所蔵漢籍のうち、これまでのデータベースに未収録であった図書、合計約6500件の入力を行い、公開した。また、本年度新たに、本所所蔵倉石文庫漢籍の書誌情報データベースを公開した。これによって、倉石武二郎博士旧蔵図書の大部分が、オンラインで公開されたことになる。倉石文庫の購入からかなりの年月を経て、ようやくこの目録が公開されたことの意味は大きい。また、図像データの貼り付け作業も進捗している。

具体的な成果物

東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース

<http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html>

15 江戸時代『左伝』刻本データベースの構築 / 平勢

全体計画

江戸時代に多くの刻本が出版され、注釈が編まれたことが知られている。それらをまとめる上で重要な位置を占めるのが、竹添光鴻『左氏会箋』である。この書物は膨大な材料をコンパクトにまとめる過程で原著書の名が消えた。それらをこまめに補う作

業などを進めたのが上野賢知『左氏会箋遡源』である。

今年度の進捗状況

本年も、この『遡源』の書き入れから江戸時代注釈部分を抜き出し、『左氏会箋』初版本からそれらがたどれるよう画像化を進めた。

具体的な成果物

16 江戸・明・古代プロジェクト / 平勢

全体計画

我が国の江戸時代は、中国の明代・清代の影響を受けつつ、独自の主張を展開した時代として知られている。明代は、中国古代を総括し、それを基礎に宋代以来の学問の体系化が進んだ。清代はそれを継承しつつ、考証学を生み出した時代である。そうした歴史的うねりを、我が国の先人たちはどう受け止めて咀嚼し、どのような展開をはかったのか。そうした先人たちのたどった道を、いくつかのテーマごとに、ご紹介しようとするサイトを立ち上げた。

今年度の進捗状況

サイトの立ち上げ。

具体的な成果物 [Web 公開]

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

17 アラビア文字圏近現代データベース形成の手法の研究 / 長澤

全体計画

近現代のアラビア文字圏に関する政治社会分析のために、同地域の原資料を用いたデータベース形成の手法を研究する。19世紀以降に刊行されたアラビア文字資料、とくに議会議事録・官報・法令集・政府年鑑・地誌等の諸資料の内容比較を行うとともに、これらの資料の画像デジタル化、索引などのアラビア文字データ入力と整理作業を通じて、データベース構築のための基礎的な研究を行う。

今年度の進捗状況

最終年度である本年度は、昨年に引き続いてデジタル化したアラビア文字資料の索引・目次などを利用して用語検索システムのためのアラビア文字入力作業を引き続き行い、昨年度にデジタル化を行なったイラン国会議事録と、オスマン帝国やエジプトの議会資料との内容比較を通じて、相互に共通のデータベース化モデルについての検討を行った。また、法令集や法律雑誌などの基礎資料も収集し、議会資料との比較研究も行った。

具体的な成果物 [予定][データベース]

オスマン帝国官報ならびにエジプト議会議事録の利用の手引きとなる便覧の作成。それをもとに用語検索システムをもったデータベースの実験的構築を目指す。

18 ヒンドゥー儀礼基礎資料作製データベース / 永ノ尾

全体計画

ヴェーダ祭式からはじめ、現代にまで伝承されているポスト・ヴェーダ期のヒンドゥー儀礼に関するさまざまなレベルの情報の集積を目的としている。儀礼を伝える文献、個々の儀礼、さまざまな儀礼要素に関して、今までの研究、それらを記述するテキスト、さらには関連する儀礼や儀礼要素の間の相互関係が検索できるように、工夫しながら作製している。単なるテキストの入力ではなく、分析の視点を導入している。

今年度の進捗状況

今年度はグリヒヤストラが記述する vedavrata, Jaiminiya Brahmana のソーマ祭式の解釈、初期密教文献の Amoghapasakalparaja, ヒンドゥー教タントラ儀礼のさ

さまざまなデータ，特に呪術に関連する情報などを中心にデータを収集した。2004年3月12日現在ファイルの総行数70745，10,456,291バイトのデータが蓄積されている。
具体的な成果物 [刊行物]

データそのものは公開されていないが，このデータベースに関して以下の紹介文がある。

「ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料」『明日の東洋学』December 2000 no. 4，
pp. 2-3.

「CARD：ヒンドゥー儀礼研究のための基礎情報」『データベースの活用と人文社会科学』全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナーシリーズ No. 12，
2002，pp. 91-112。

19 戦後日本政治・外交データベース

全体計画

日本の内政・外交ならびに国際関係にかかわる重要な政治文書等（国会などでの演説，条約や共同宣言など国際的取り決め，政府文書，報告書等）の全文テキストを公開するプロジェクト。ひろく日本の政治・国際関係に関心を持つ者すべてにとって有益で便利なデータベースとなることを目指している。

今年度の進捗状況

平成15年度は，「日本とヨーロッパ関係資料集」，「日本と中東関係資料集」，「日本とアフリカ関係資料集」，「戦前日本外交文書」を作成・公開したほか，多数国間条約集をさらに充実させた。日中関係資料集には，中国語テキストも公開しつつある。その他追加したテキストも含めて，年度中に541文書（5.9M Byte）を新規に公開した。

具体的な成果物 [Web 公開]

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>で，「データベース『世界と日本』」の部分データベースとして公開している。「データベース『世界と日本』」は，Yahooでは「国際関係」に関する唯一の「クール」なサイトであり，Googleのディレクトリーでは，「政治・行政」のページランク順で第一位である。

2. 公開・発信

(a) ホームページの更新・運営

センターホームページ (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>) の充実をはかり、平成10年度～平成14年度の事業報告、平成10年度～平成15年度の漢籍整理長期研修の講師・課目・日程を追加した。また、研究情報の提供を目的とする新たなサイト「アジア研究情報 Gateway」を立ち上げた。

(b) データベースの公開

「東文研所蔵中国語雑誌検索サービス(試行版)」のサービスを開始した。「中国絵画所在情報データベース」が所外向けのサービスを開始した。「江戸・明・古代プロジェクト」「アジア・バロメーター」のサイトが開設された。

なお、平成15年4月1日から平成16年3月31日までのセンター関連サイトのアクセス数は下記のとおりである(判明するもののみ)。「東洋文化研究所所蔵漢籍目録」5,171件、「朝鮮族譜データベース」+「近代朝鮮関係書籍データベース」10,119件、「中国近現代文学関係雑誌記事データベース」19,567件、「東文研所蔵中国語雑誌データベース」3,164件、「南アジア文献検索データベース」1,856件、「インド・イスラーム史跡データベース」2,569件、「イスラーム事典データベース」23,707件、「データベース世界と日本」108,498件、「アジア・バロメーター」2,657件、「アジア研究情報ゲートウェイ」5,938件であった(数字は平成16年7月6日報告分による)。

(c) アジア・デジタル展示館

本研究所が所蔵する貴重書、写真、考古資料等のデジタル化と公開を継続中である。

(d) 出版

東洋学研究情報センター叢刊第3輯『東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録』、同第4輯『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史目録』を刊行した。また、ニューズレター『明日の東洋学』は第10～11号を刊行し、全てのバックナンバーのPDFファイルをホームページ上で配布している。

(e) 漢籍整理長期研修

平成15年度は6月23日～9月26日に実施し、10名が受講した(日程及び受講者名簿は19～20頁を参照されたい)。6月23日～27日の1週間は人文社会系研究科文化資源学専攻の授業を兼ねており、本学の院生10名が受講した。

(f) 平成15年度全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー

本年度は一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センターが当番校で、「センター所蔵資料の活用と人文社会科学」をテーマとして、11月26日～27日に一橋大学国際共同研究センターで開かれた。本センターのセッションでは橋本秀美氏(東洋文化研究所助教授)が「貴重漢籍のデジタル化と資源共有」の講演を行った。

3. 平成15年度全国文献・情報センター長会議(第39回)

今年度は京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センターが当番校で、9月19日(金)に京大会館で開催された。

C 新年度の事業目標

平成 16 年度の事業は、これまで 5 年間のセンター事業を自己点検し、見直しを行うとともに、従来のセンター校費中心の事業運営を改め、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、また新規事業への取り組みを目指す。

まず、センターの基軸であるセンタープロジェクトでは、文献資料分野において、古籍資料を中心とした多言語によるアジア電子図書館の構築というグランドデザインを構想し、その枠組みの中でアジア各地域の多言語資料を順次データベース化しその公開を目指す事業を展開する。センター校費に加えて科学研究費補助金をも投入したこの事業において、今年度は研究蓄積が進んでいる東アジアの漢籍資料にまず対象の重点を置く。また、造形分野では、中国絵画とイスラーム地域造形資料を二つの軸として事業を展開する。(個別のプロジェクトについては別表参照)

また、昨年度から開始した新しい型の研究情報プロジェクトでは、アジア・バロメーターとアジア研究情報ホームページの二事業の充実を目指す。また、昨年の ASEAN+3 首脳会議で合意された東アジア研究者ネットワークの構築事業の事務局を担当する。

成果の公開・発信の事業の一環として、前年度に引き続き漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニュースレター『明日の東洋学』および文献目録資料『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行する。また、全国文献・情報センター長会議や同共催セミナーへの参加をはじめ、学内外の関係機関との交流にも努めたい。

上記に述べた積極的な事業展開のためには、これまでのセンター校費だけでは不十分である。昨年度に引き続き、科研費の申請など競争的経費の獲得を目指すとともに、安定的な資金の確保も模索したい。また、これまでと同様、センタープロジェクトの発展に伴い、作業スペースを確保・拡大していくことも課題としたい。

これまでのセンター校費プロジェクト一覧

	プロジェクト名 / 担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	
1	現代中国書データベース / 岡本	セ	[一般]					国立情報学研究所にデータ提供。情報学研究所の公開開始までは当センターが同データベースを公開（現在は終了）。
2	Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築 / 鈴木（隆）	セ	[一般]					Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書を公開（現在は作成者の所属機関＝山口大にサーバを設置）。 http://suzuki.ypu.jp/edic/
3	内蒙古出土学術資料のデータベース化 / 後藤	セ	重点	重点				データベースを所内限定公開。2003 年横浜ユーラシア文化館、2004 年古代オリエント博物館に資料を出陳。
4	インド・イスラム史跡データベース / 中里，深見	セ	重点	重点				データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/islamarc/WebPage1/hm/index.shtml
5	東アジア族譜データベース / 宮嶋	セ	重点	重点				データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/koreandb/zokufuindex.htm
6	倉石文庫漢籍目録の作成とデータベース化 / 高見沢，丘山，尾崎	セ	重点	重点	重点			東洋文化研究所漢籍目録データベースに収録して公開。 http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html
7	中国絵画デジタルアーカイブプロジェクト / 板倉，小川	セ	重点	重点	重点	重点		データベースを試験公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ No. 19 に発展的に継続。
8	東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化 / 尾崎		試行	試行	試行	試行		データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ozaki/cnmgz.html
9	在外日本企業作成資料のデータベース化 / 濱下			試行	重点	試行	試行	
10	アジアの世論調査の現状と展望（アジア・バロメーター） / 猪口				重点	重点	重点	ウェブサイトを開く。 http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/asiabarometer/ 刊行物：「東洋文化研究所ディスカッションペーパー」2003 年。

	プロジェクト名 /担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	
11	東洋文化研究所所蔵 「荒木文書」のデジ タル情報化 / 大田				重点	重点	重点	刊行物: 東洋学研究情報センター 叢刊第4輯『東京大学東洋文化研 究所所蔵清朝建築関係史目録』 2004年。
12	イスラーム地域文献 資料データベース構 築 / 長澤				重点	重点		No. 18 に発展的に継続。
13	イスラーム地域造形 資料データベース構 築 / 榎屋				試行	試行	試行	
14	貴重漢籍の補修とデ ジタル化 / 丘山					重点	重点	
15	アジア研究情報ホー ムページ / 長澤					試行	重点	ウェブサイトを公開。 http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/
16	ダイバーコレクション のデータベース化 / 鎌田					試行	試行	
17	英領植民地ビルマに おける借金文書の整 理とデータベース化 / 高橋					試行	試行	
18	西アジア近代史文献 資料データベース構 築 / 長澤						重点	
19	中国絵画資料の収集 とデジタル化 / 板倉						重点	
20	東京大学附属図書館 所蔵南アジア関係の 写本のデジタル化 / 永ノ尾						試行	
21	南アジアの言語の辞 書のデジタル化 / 永 ノ尾						試行	
22	東文研所蔵中国雑誌 データベースおよび 中国近現代文学関係 記事データベースの メンテナンス / 尾崎						試行	

	プロジェクト名 / 担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	
23	東文研所蔵タイ語資料データベースの構築 / 池本						試行	
24	旧東方文化学院所蔵考古資料のデジタル化 / 平勢						試行	
25	中央アジアの伝統的な地域社会組織 マハッター研究データベース構築 / ダダバエフ						試行	

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター叢刊既刊一覧

東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002 .
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所蔵夕嵐草堂文庫目録 2003 .
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所蔵伊藤義教文庫目録 2004 .
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所蔵清朝建築関係史料目録 2004 .

東洋学文献センター叢刊

- 第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和41年度)1968 .
- 第2輯 清代地方劇資料集(一)1968 .
- 第3輯 清代地方劇資料集(二)1968 .
- 第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969 .
- 第5輯 郁達夫資料 1969 .
- 第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和42・43年度)1970 .
- 第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(上)1970 .
- 第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(中)1970 .
- 第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(下)1970 .
- 第10輯 李大 文献目録 1970 .
- 第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970 .
- 第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970 .
- 第13輯 魯迅全集注釈索引 1971 .
- 第14輯 1930年代中国文芸雑誌(一)1971 .
- 第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(1)1972 .
- 第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(2)1972 .
- 第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(3)1972 .
- 第18輯 郁達夫資料補篇(上)1973 .
- 第19輯 切韻殘卷諸本補正 1973 .
- 第20輯 目録学 1973 .
- 第21輯 花間集索引 1974 .
- 第22輯 郁達夫資料補篇(下)1974 .
- 第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(一)1975 .
- 第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976 .
- 第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(二)1976 .
- 第26輯 民国以来人名字号別名索引 1977 .

- 第 27 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（一）1978 .
- 第 28 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（三）1978 .
- 第 29 輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978 .
- 第 30 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（四）1979 .
- 第 31 輯 儀礼疏攷正（上）1979 .
- 第 32 輯 儀礼疏攷正（下）1979 .
- 第 33 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（五）1980 .
- 第 34 輯 小説月報（1920 - 1930）總目録 1980 .
- 第 35 輯 コミンテルン定期刊行物 中国關係論説・記事索引 1981 .
- 第 36 輯 魯迅文言語彙索引 1981 .
- 第 37 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（二）1981 .
- 第 38 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（三）1982 .
- 第 39 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（六）1983 .
- 第 40 輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説（上）1983 .
- 第 41 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（四）1983 .
- 第 42 輯 校合本 大越史記全書（上）1984 .
- 第 43 輯 『植民地雜誌』(Koloniaal Tijdschrift) 所収論文目録 1984 .
- 第 44 輯 校合本 大越史記全書（中）1985 .
- 第 45 輯 江西蘇区紅色戲劇資料集 1985 .
- 第 46 輯 宋之問詩索引 1985 .
- 第 47 輯 校合本 大越史記全書（下）1986 .
- 第 48 輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説（下）1986 .
- 第 49 輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録（上）1987 .
- 第 50 輯 沈尹期詩索引 1987 .
- 第 51 輯 中華人民共和国・朝鮮民主主義人民共和国 職官歴任表 1987 .
- 第 52 輯 韓国政治エリート研究資料 - 職位と略歴 - 1987 .
- 第 53 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（五）1988 .
- 第 54 輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録（下）1988 .
- 第 55 輯 南嶽思大禪師立誓願文索引 - 六朝隋唐宗教・思想資料 - 1988 .
- 第 56 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（六）1988 .
- 第 57 輯 郁達夫資料總目録附年譜（上）1989 .
- 第 58 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（七）1989 .
- 第 59 輯 郁達夫資料總目録附年譜（下）1990 .
- 第 60 輯 山西票号資料 書簡篇（一）1990 .
- 第 61 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（八）1990 .
- 第 62 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（九）1991 .

- 第 63 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目収載雑誌名索引
1992 .
- 第 64 輯 許壽裳日記 (自 1940 年 8 月 1 日至 1948 年 2 月 18 日) 1993 .
- 第 65 輯 許舒博士所蔵商業及土地契約文書 乾泰隆文書 (1) 1995 .
- 別輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録 (書名・人名索引)
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録 (書名・人名通檢)
- 別輯 2 海外所在中国絵画目録 (アメリカ・カナダ編) 1977 .
- 別輯 3 海外所在中国絵画目録 (東南アジア・ヨーロッパ編) 1981 .
- 別輯 4 日本所在中国絵画目録 (寺院編) 1982 .
- 別輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982 .
- 別輯 6 日本所在中国絵画目録 (博物館編) 1982 .
- 別輯 7 日本所在中国絵画目録 (個人蒐集編) 1983 .
- 別輯 8 中国經濟關係雑誌記事総目録 (一) - 『中外經濟周刊』『經濟半月刊』『工商半月刊』 - 1983 .
- 別輯 9 孟郊詩索引 (上) 1984 .
- 別輯 10 孟郊詩索引 (下) 1984 .
- 別輯 11 中国經濟關係雑誌記事総目録 (二) - 『國際貿易導報』 - 1985 .
- 別輯 12 中国經濟關係雑誌記事総目録 (三) - 『中行月刊』 - 1985 .
- 別輯 13 『内務行政雑誌』所収論文・記事目録 (A Catalogue of the Articles in Tijdschrift voor het Binnenlandsch Bestuur) 1985 .
- 別輯 14 中国經濟關係雑誌記事総目録 (四) - 『銀行週報』(上) - 1987 .
- 別輯 15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧 - 山西省出土文字資料 - 1988 .
- 別輯 16 中国經濟關係雑誌記事総目録 (五) - 『銀行週報』(下) - 1989 .
- 別輯 17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (ヨーロッパ編) 1992 .
- 別輯 18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 上 本文編) 1994 .
- 別輯 19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 下 索引編) 1994 .
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995 .
- 別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (東アジア編) 1997 .
- 別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998 .
- 別輯 23 天津史文献目録 1998 .
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999 .

大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, 1988.

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, 1996.

平成15年度漢籍整理長期研修 日程・科目・講師

日 程	課 目	9:00～ 12:00	13:00～ 17:00	講 師	備 考
6月23日(月)	開講式(9:30～) オリエンテーション			田中 明彦 (東洋学研究情報センター長) 長澤 榮治 (東洋学研究情報センター主任)	
6月23日(月)	漢籍版本目録概説	講義	講義	大木 康 (東洋文化研究所教授)	
6月24日(火)	四部分類について	講義	講義	井波 陵一 (京都大学教授)	
6月25日(水)	漢籍データベースの利用と構築	講義	講義	安岡 孝一 (京都大学助教授)	
6月26日(木)	朝鮮本について	講義	講義	藤本 幸夫 (富山大学教授)	
6月27日(金)	漢籍整理実習 第一部(1)	実習	実習	陳 捷 (日本女子大学助教授)	
6月30日(月)	午前:中国現代書について 午後:漢籍データベース作成 作業見学	講義		高見澤 磨 (東洋文化研究所助教授) 丘山 新 (東洋文化研究所教授)	
7月1日(火)～ 2日(水)	漢籍整理実習 第一部(2)	実習	実習	陳 捷 (日本女子大学助教授)	
7月3日(木)	東洋文庫について	講義	講義	中善寺 慎 (東洋文庫司書)	見学を含む
7月4日(金)	中国書史概説	講義	講義	高津 孝 (鹿児島大学教授)	
7月7日(月)～ 9月19日(金)	所属図書館所蔵漢籍整理及び研究	自習	自習		
9月22日(月)	漢籍整理実習 第二部	実習	実習	大木 康 (東洋文化研究所教授) 橋本 秀美 (東洋文化研究所助教授)	
9月24日(水)	和刻本について	講義	講義	長澤 孝三 (国立公文書館専門調査員)	内閣文庫見学を含む
9月25日(木)	漢籍補修法	講義	講義	安藤 清、細井 歌寿男 (宮内庁書陵部)	
9月26日(金)	漢籍文庫経営法	講義	講義	高橋 智 (慶應義塾大学助教授)	
9月26日(金)	修了式(16:30～)			田中 明彦 (東洋学研究情報センター長) 長澤 榮治 (東洋学研究情報センター主任)	

都合により課目・講師等を変更することがあります。

平成15年度漢籍整理長期研修研修員名簿

No	所属図書館	氏名
1	筑波大学附属図書館	ふなやま けいこ 船山 桂子
2	東京大学附属図書館	よしだ さきこ 吉田 左貴子
3	東京外国語大学附属図書館	やまと かずこ 大和 加寿子
4	新潟大学附属図書館	くりはら みちお 栗原 道夫
5	金沢大学附属図書館	いけがみ かおり 池上 佳芳里
6	京都大学人文科学研究所	あかぎ しゅんすけ 赤木 俊介
7	大阪教育大学附属図書館	ふじわら そうこ 藤原 奏子
8	国立国会図書館	みよし ゆきみ 三好 由紀美
9	専修大学図書館	あかまつ れいこ 赤松 令子
10	駒澤大学図書館	あそ ゆきえ 阿曾 雪江

平成15年度東洋学研究情報センター 決算

予算及び決算

(単位：千円)

予算科目	当初予算	追加配分	決算額	備考
(目) 諸謝金	755	145	900	
(目) 員等旅費	979	600	1,579	リーダーシップ経費より追加配分
(目) 職員旅費	1,740	0	1,740	
(目) 校費	14,287	3,659	17,946	リーダーシップ経費より追加配分
計	17,761	4,404	22,165	

決算額内訳

(単位：千円)

予算科目	内訳	決算額	備考
(目) 諸謝金	漢籍整理講習会講師謝金	567	
	ニューズレター原稿料	0	
	講演謝金	0	
	ホームページ原稿謝金	333	
(目) 員等旅費	漢籍整理講習会講師旅費	249	
	漢籍整理講習会受講生旅費	730	
	研究所主催研究会旅費	600	
(目) 職員旅費	5センター関係	387	
	調査研究等	1,140	
	研修出張	213	
(目) 校費	図書雑誌費	166	
	新聞費	517	
	デジタル化推進費	518	
	備品費	1,420	
	ニューズレター印刷費	324	
	センター叢刊印刷費	1,229	
	パンフレット印刷費	154	
	消耗品費	289	
	会議費	4	
	通信費	210	
	複写費	158	
	センタープロジェクト費	12,957	内訳は次ページ参照
	計	17,946	

センター校費プロジェクト決算報告（平成15年度）

件数	プロジェクト名称	担当教官	予算（千円）	追加配分 （千円）	決算（千円）
1	中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト	板倉	2,250	0	2,283
2	イスラーム地域文献資料データベース構築	長澤	1,900	250	2,141
3	東洋文化研究所所蔵「荒木文庫」のデジタル情報化	大田	2,250	710	2,950
4	アジアの世論調査の現状と展望（アジア・バロメーター）	猪口	600	0	585
5	貴重漢籍の補修とデジタル化	丘山	1,500	0	1,499
6	在外日本企業作成資料のデータベース化	濱下	650	0	607
7	イスラーム地域造形資料データベース構築	榎屋	1,450	0	1,424
8	アジア研究情報ホームページ	長澤	500	340	879
9	ダイバー・コレクションのデータベース化	鎌田	300	0	300
10	英領植民地ビルマにおける借金文書の整理とデータベース化	高橋	0	289	289
11	東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化 （RAを措置）	尾崎	0	0	0
			11,400	1,589	12,957